

<p>科目名：人体と薬理</p>	<p>必</p>	<p>2 単位</p>
<p>(Pharmacology) 履修年次/時期：1 年次 後期 授業形態：講義 担当教員：前畑洋次郎（実務経験あり）</p>		
<p>学修目的</p>	<p>薬物療法において、チーム医療による看護師・医師・薬剤師の連携が、安全かつ有効な医療をもたらし、患者の早期回復につながる。とくに薬物療法における看護師の役割には、①誤薬の防止、②治療効果の確認、③有害作用の早期発見と予防、④服薬に関する患者指導、⑤患者・家族に対する治療の説明、などがある。薬物療法への理解を深め、得た知識を看護の実際によりよく活かせるよう薬理学の基礎的理論を修得する。</p> <p>DP1-(1)、2-(1)、2-(2)およびCP 2、3、4に関連する。 科目 No.KSI-116</p>	
<p>到達目標</p>	<p>【1部 薬理学総論】</p> <p>① 第1章「薬理学を学ぶにあたって」：薬物とはなにか。薬理学のなりたちについて説明できる。</p> <p>② 第2章「薬理学の基礎知識」：薬の作用するしくみ、薬の体内の挙動について説明できる。</p> <p>【2部 薬理学各論】</p> <p>① 第3章「抗感染症薬」：抗感染症薬の作用機序と使用目的および有害作用について説明できる。</p> <p>② 第4章「抗悪性腫瘍薬」：抗悪性腫瘍薬の作用機序と使用目的および有害作用について説明できる。</p> <p>③ 第5章「免疫治療薬」：免疫治療薬の作用機序と使用目的および有害作用について説明できる。</p> <p>④ 第6章「抗アレルギー薬・抗炎症薬」：アレルギーおよび炎症時に用いる薬物の作用機序と有害作用について説明できる。</p> <p>⑤ 第7章「末梢神経系での神経活動に作用する薬」：末梢神経に作用する薬の作用機序と使用目的および有害作用について説明できる。</p> <p>⑥ 第8章「中枢神経系に作用する薬」：中枢神経系に作用する薬の作用機序と使用目的および有害作用について説明できる。</p> <p>⑦ 第9章「循環器に作用する薬物」：心臓・血管系に作用する薬の作用機序と使用目的および有害作用について説明できる。</p> <p>⑧ 第10章「呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬」：呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬の作用機序と使用目的および有害作用について説明できる。</p> <p>⑨ 第11章「物質代謝に作用する薬物」：糖尿病、甲状腺機能障害、骨粗鬆症の治療に用いられる薬物の作用機序と使用方法について説明できる。</p> <p>⑩ 第14章「漢方薬」：漢方薬の臨床応用・有害作用について説明できる。</p> <p>⑪ 第15章「消毒薬」：消毒薬の分類と特徴および臨床応用について説明できる。</p>	
<p>授業概要</p>	<p>薬理学の総論および各論の基礎的知識をつけ、薬物治療の目指すもの、薬物の作用機序を学ぶ。薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）、薬効に影響する因子、副作用及び薬物の取り扱いと管理について理解する。</p>	
<p>評価方法</p>	<p>定期試験 90% 授業の参加態度 10% *練習問題は到達目標の到達度を自覚させる目的で各講義時間内に実施する。また、練習問題で間違った箇所は到達目標に達成していないところなので、理解しないまま過ぎないように自学自習（予習・復習）を促し、レポートを提出することで知識が確実に積み重ねるようにする。</p> <p>試験に対するフィードバックは掲示で行う。</p>	
<p>予習・ 復習時間</p>	<p>【予習】2.0時間 【復習】2.0時間</p>	

教科書	① 系統看護学講座 「専門基礎分野 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進・3」医学書院
参考書	① 配布資料 ② 〈パワーアップ問題演習 薬理学〉第2版 (顎伊達書院)
オフィスアワー 連絡先	前畑 月～金曜日 16:30-17:00 場所未定:前畑研究室 maehata@kdu.ac.jp 出張などでオフィスアワーに不在の場合はメールを入れて下さい。